

地方都市の公共交通の大切さをテーマとした総合学習の実践

高橋 勝美 計量計画研究所交通まちづくり研究室
谷口 綾子 筑波大学大学院システム情報工学研究科
藤井 聡 京都大学大学院都市社会工学専攻

- ・モビリティ・マネジメントとは、ひとり一人に対してコミュニケーションを通じて働きかけることで、個人的にも社会的にもより望ましい方向への自発的な意識と行動の変化を促す取り組み
- ・それを学校教育の現場において、「授業」を通じて小中学生の児童・生徒に働きかけるケースが、「学校教育におけるモビリティ・マネジメント」
- ・交通についての種々の問題を児童が考えることを通じて、児童における、「社会」についての理解と醸成と、「社会的に望ましい振る舞い方」の習得を目指したもの
- ・将来的・結果的に、社会的により望ましい交通行動を実施する成人となることが期待される

■事例

富士市富士南小学校：子ども交通まちづく理想の公共交通を考える：夢のバス

◇対象 6 年生全員

(5 クラス 180 名)

◇テーマ：

- ・修学旅行などを通して、公共交通の役割・大切さを発見し、学ぶ
- ・自分たちのまちの問題を知り、誰もが乗りたくなるバスを提案書としてまとめ発表する

◇授業の全体計画

実施期間・・・平成十六年九月十四日～平成十六年十月十九日（全4回）

授業の企画	各回ねらい	活動内容
◆公共交通の利用実態を把握する	事前準備 (1時間)	●公共交通の利用実態アンケートの実施 ・バス・鉄道の乗車経験の有無 ●効果計測アンケートの実施 (授業前)
◆公共交通に対する理解を深める	第1回 (2時間)	●公共交通の利用実態アンケートの結果報告 ●課題ワークショップ (話し合い) →路線バスについて考えよう →バス利用減少の理由 →バスがないと困るのはどれ？ →使い方、利用のルール
◆自分で公共交通の利用を体験する	学校外活動	●体験学習：バスでどこかに行ってみよう
◆公共交通の使いやすさ (利便性) を発見する	第2回 (1時間)	●体験学習報告 (話し合い) ・身近なバスに乗ってみてどうだったか →どんな人が乗っていたか →バスの良い点・悪い点
◆公共交通の必要性を発見する	修学旅行	●体験学習：鎌倉でバスに乗ってみよう
◆公共交通の役割・大切をまとめ、まちの問題課題、改善のアイデア出しをする	第3回 (2-3時間)	●修学旅行報告 (話し合い) ・公共交通に乗ってみた感想・反省点 ・富士市のバスと鎌倉のバスの違い ・公共交通の役割・大切さ ●ワークショップ ・交通まちづくりのアイデアを出す
◆人前で発表する練習	第4回 授業参観 (1-2時間)	●交通まちづくり提案書「誰もが乗りたくなる夢のバス」発表 ・授業の感想文 ●効果計測アンケートの実施 (授業後)

■事例 富士市立富士南中学校：

福祉と公共交通 コミュニティ・バスを走らせよう

◇対象 1 年生全員

(2 クラス 70 名)

◇テーマ：

- ・福祉面から公共交通の役割・大切さを発見し、学ぶ
- ・自分たちのまちの問題を知り、路線バスのルート案を提案書としてまとめ発表する

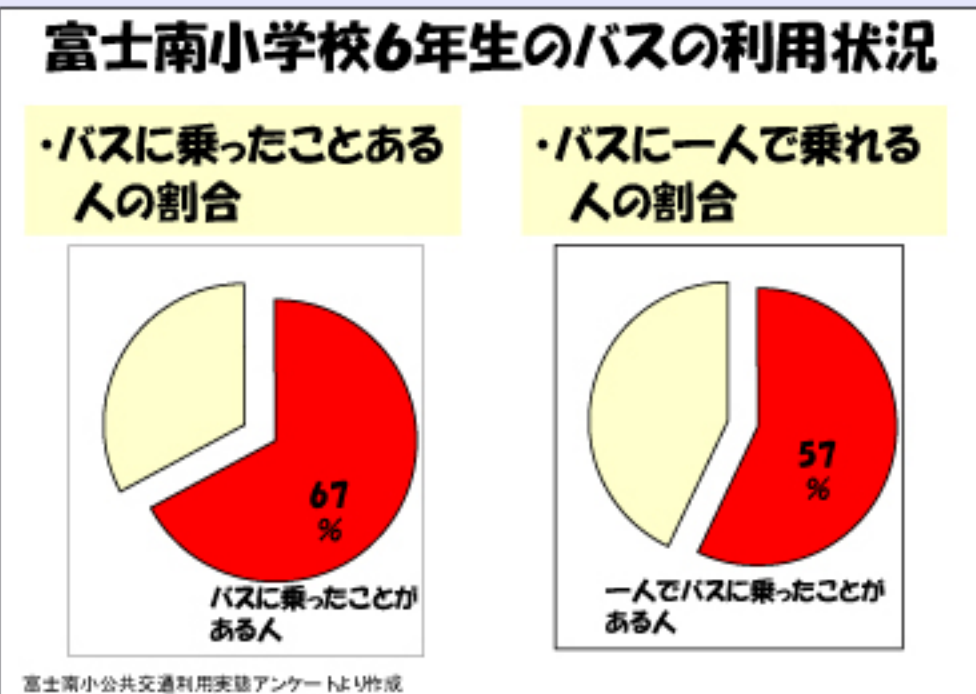
◇授業の全体計画

実施期間・・・平成十六年十一月十二日～平成十七年二月三日（全7回）

授業の企画	各回ねらい	活動内容
◆お年寄りを取りまく現状を知る	第1回 (2時間)	●公共交通の利用実態アンケートの実施 ・バス・鉄道の乗車経験の有無 ●課題：まちの現状を知ろう ・高齢者の人口と交通事故死者数の増加 ・バス利用減少の理由 ●効果計測アンケートの実施 (授業前)
◆地区に走らせる新たな路線バスを考える	第2回 (2時間)	●ワークショップ (1) (2) ・地区に走らせる路線バスのルートを考える →想定するバス利用者 →主な立ち寄り施設 →バス停を置く
◆地区の交通実態を知る	第3回 (2時間)	●自分や家族の一日の移動を記録する (交通日記) ●考えたバスルートについて保護者からアドバイスをもらう
◆自分でバスの利用を体験する	学校外活動	●体験学習 ・バスに乗ってみよう (低床バスなど)
◆地区に走らせる新たな路線バスを考える	第4回 (1時間)	●ワークショップ (3) ・提案性や運行条件を考える (乗車人数、バス停間隔、運行頻度・時間帯、運行距離等)
◆人前で発表する練習	第5回 (2時間)	●ワークショップ (4) ・「新たな路線バスルート提案書」をまとめよう
◆自分たちの立場・役割を踏まえて公共交通の役割・大切さを確認する	第6回 学年発表会 (8時間)	●「新たな路線バスルートの提案書」発表
◆効果を計る	第7回 (2時間)	●学習のふりかえり ・公共交通の役割・大切さ、公共交通に乗ってもらう工夫 (自分たちでできること) を考える ・授業の感想文 ●効果計測アンケートの実施 (授業後)

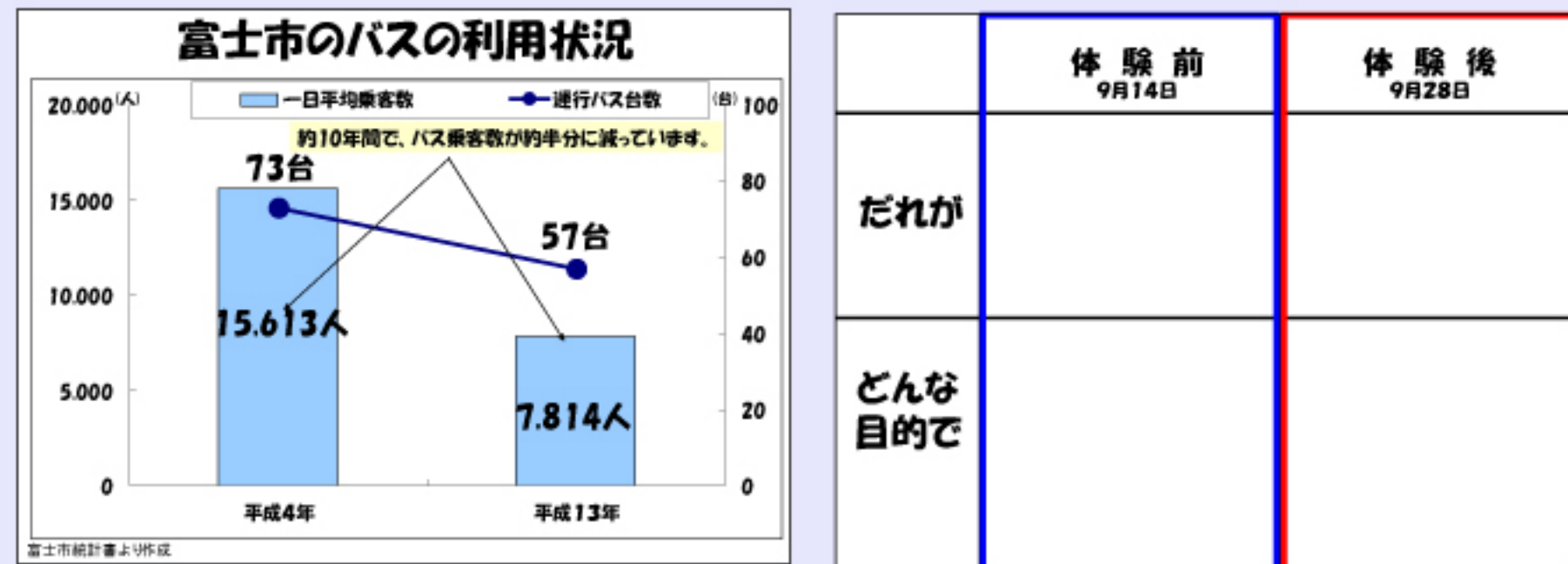
①公共交通利用実態アンケート

(授業前)

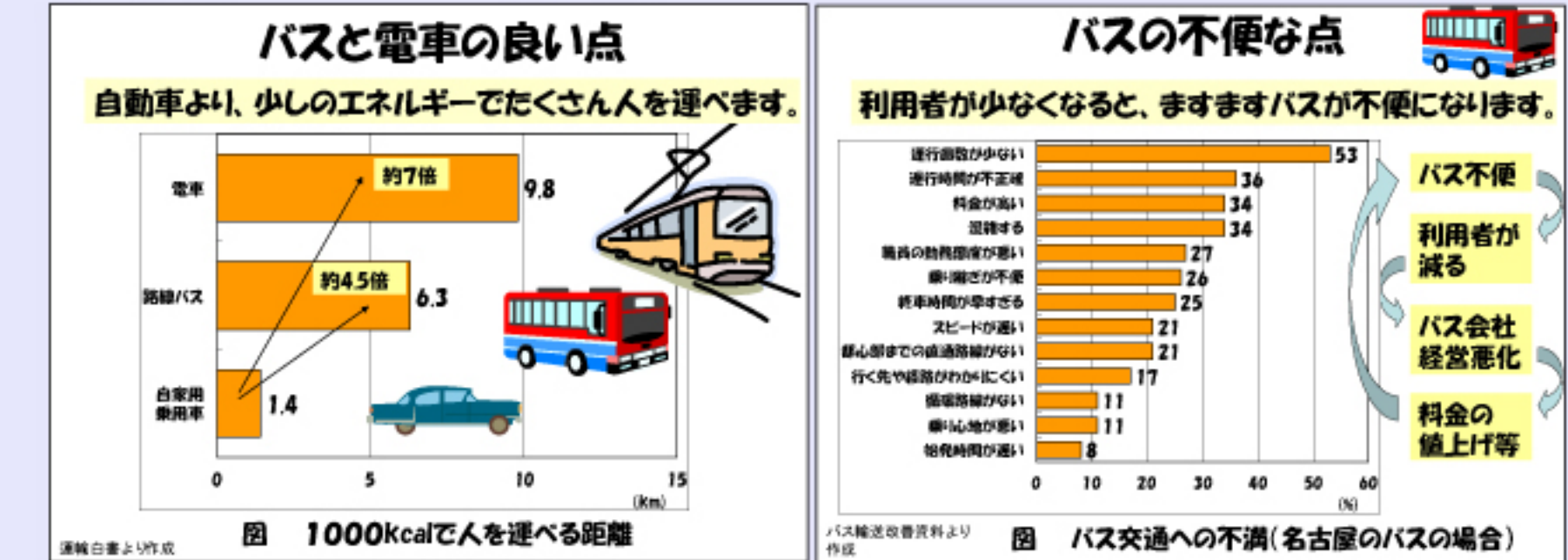


③授業に対する児童の動機づけをおこなう授業のシナリオづくり

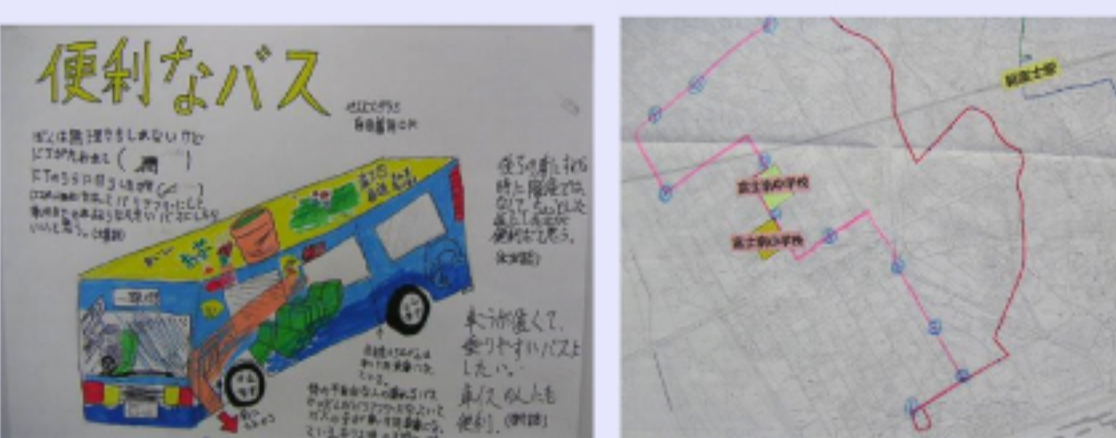
1) バスの利用状況 (利用者数、運行台数) 2) バスがなくなると困る人はどれ？



④公共交通の体験学習 (修学旅行 (鎌倉) / バスの日のイベント)



⑥学習のまとめと提案書づくり



⑦学習成果を発表する機会づくり



①公共交通利用実態アンケートの実施

(授業前)

Q: 出かける時に使う移動手段は？

1位 自転車 (29%)

2位 家の人の車 (28%)

3位 徒歩 (22%)

4位 バス (13%)

5位 タクシー (9%)

※回答者数70名

②効果計測アンケートの実施

(授業前 / 授業後)

質問内容

1) 地域への愛着

2) まちづくり全般

3) まちづくりへの関心

4) 地域の公共交通

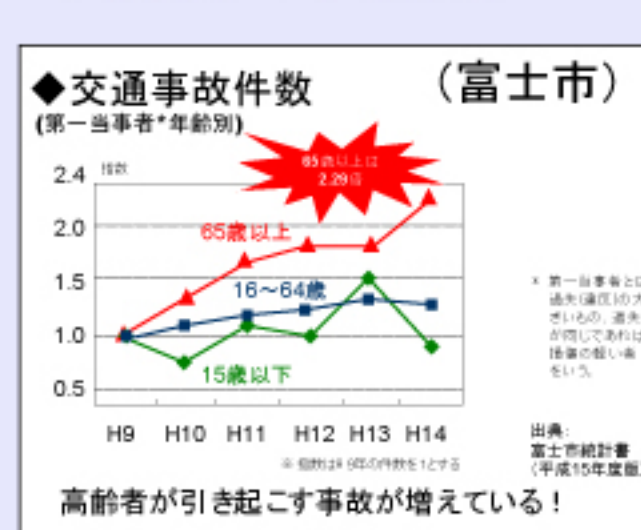
5) 地域の環境問題

6) 自分自身の交通行動

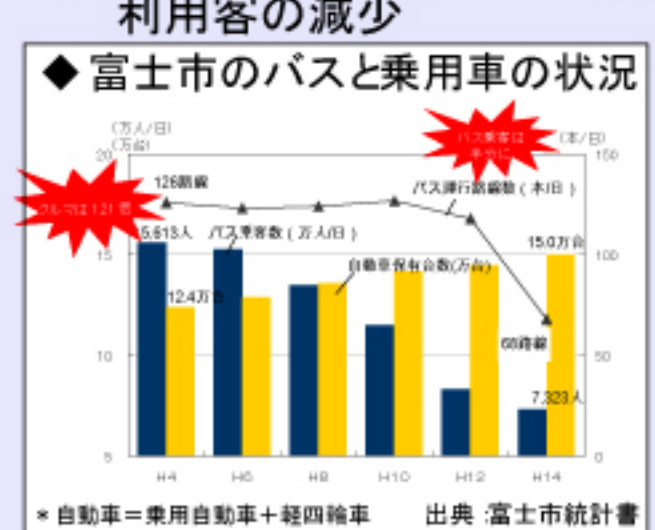
7) 住民参加行動

③授業に対する児童の動機づけをおこなう授業のシナリオづくり

1) 高齢者の事故件数

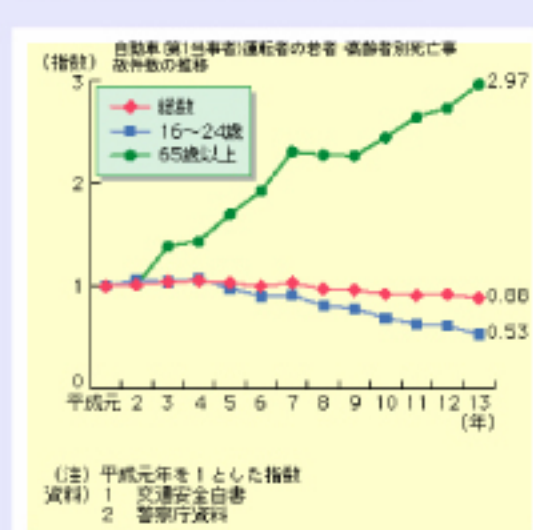


2) 自動車保有台数とバス路線数と利用客の減少

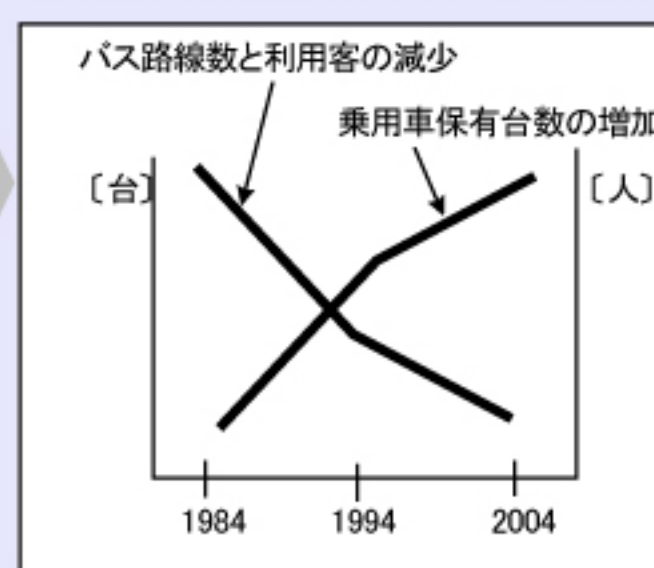


3) 授業の進め方 (授業シナリオ)

●高齢者の事故件数



●自動車保有台数とバス路線数と利用客の減少



※想定される生徒の意見

・バスが減っているからみんな乗用車を利用しようになり、乗用車が増えた。

・乗用車が増えたから、みんなバスに乗らなくなった。

・お年寄りが増えるのにバス利用客が減っているのは、お年寄りもみんな乗用車で移動するからだ。

・お年寄りの事故が増えているのは、無理して乗用車に乗っているからかも。

※担任の先生のコメント

・クルマが増えているからバスが減ってきた。

・クルマが減ればバスの利用客も増えるかもしれない。

・お年寄り、バスが減ってバスが不便になり、クルマ以外で外出できなくなり、目が悪くなり体調がすぐれないときでも無理に運転したりして、結果的に交通事故にあっているのかもしれない。

④交通日記の記入

(学校外活動・冬休みの宿題)



- 他人の立場に立って考えるきっかけづくり
- 自分を含めた家族の交通行動に興味を持ってもらう (モビリティ・マネジメントの授業に興味を持ってもらう)
- だれがどんな目的でどこに行っているのか、路線バスのルート案に活かす

⑤バスの乗車体験学習

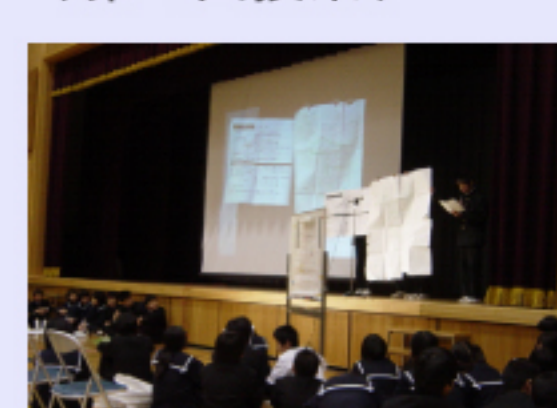
(第4回授業)



- バスの問題課題を発見し、学ぶ
- 路線バスのルート案に活かす

⑥成果の発表

(第6回授業)



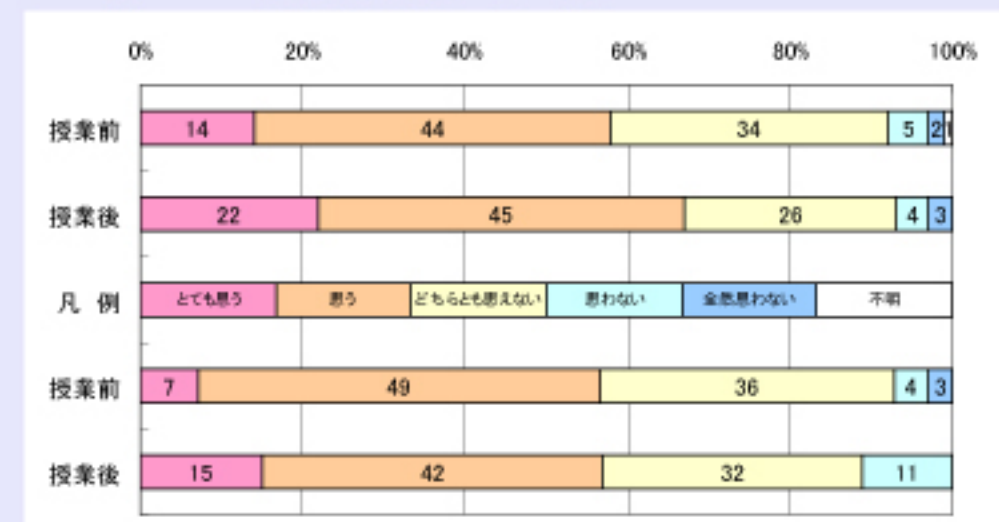
⑦学習のふりかえり

(第7回授業)

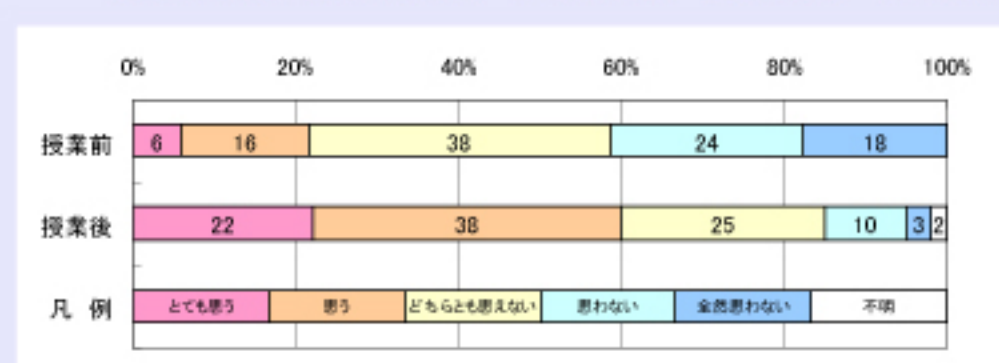


効果計測のアンケート

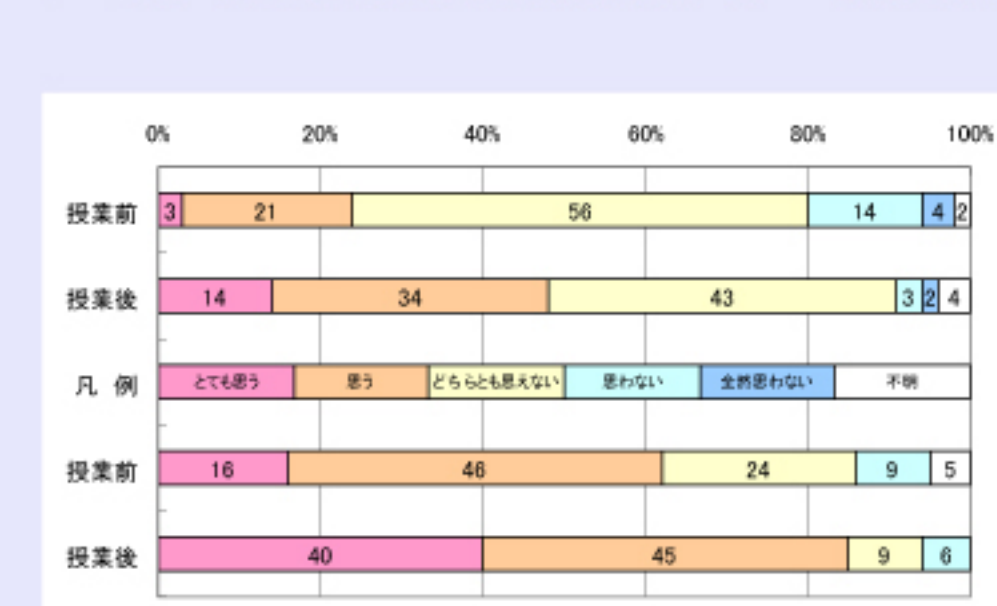
Q: みんなが「まちの問題」にもっと関心を持つべきだと思いますか？



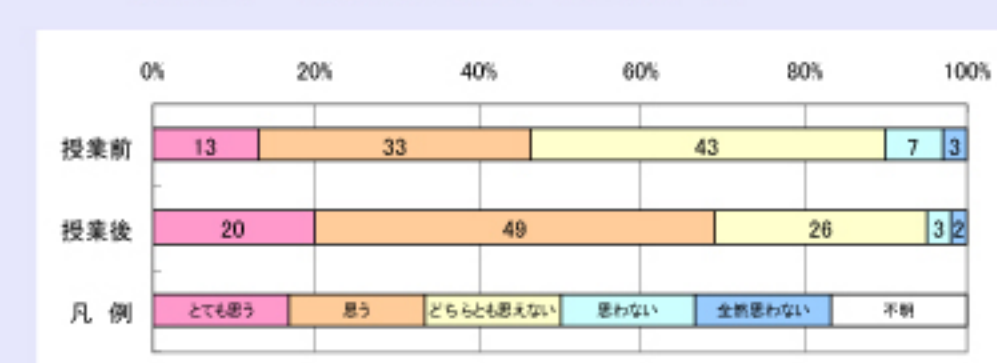
Q: 皆がクルマばかりを使っていると、公共交通が無くなってしまおうと思いますか？



Q: できるだけ公共交通を利用するべきだと思いますか？



Q: 公共交通を残していくために、わたしたち住民は協力すべきだと思いますか？



教諭へのアンケート

①モビリティ・マネジメントの学習効果

○自分たちの住む地域の現状を知り、他の人も自分も大切にしようとする思いを喚起できた

○自分たちのまちや学区を見つめ直し、便利にしたい、良くしたい意欲が高めることができた

○長い目で見て将来のこの地区のまちづくりの担い手としての自覚を持てた

○大舞台での発表によって自分たちの活動に手ごたえと誇りを持つことができた

地域への愛着心
まちづくりへの関心
住民参加行動 など

③授業の進め方に関する反省点

○交通に関する教諭側の予備知識が必要で、事前準備には十分な時間が必要であった

○モビリティ・マネジメントに関する基礎知識や考え方が明確でないまま授業カリキュラムをスタートさせてしまったため、無駄な質問疑問などを生徒たちに投げかけてしまった

○毎回の事前打ち合わせと反省の時間の確保が非常にきびしい

十分な事前準備の時間の確保
学習に必要な情報・基礎知識の事前提供

②モビリティ・マネジメントの総合的な学習への適用性

○将来にわたって関心を高め、自己の生活に生かしていける良いテーマだった

○興味深いテーマで、もしかすると自分達の提案が実現するかもしれないとの思いから、現実味を帯びた良いテーマだった

○学区の問題・課題としてもふさわしく、お年寄りの立場になって物事を考えることを通じて、広く社会全般を考えることができて良かった

○専門家からの意見やアドバイスも、様々な視点から物事を考える大切さに気づけた

現実的なテーマ
学区の問題課題
様々な視点から広く社会を考える

④教諭から行政への要望

○授業で提案した内容 (バス路線のルートの提案) を、富士市の交通政策に一部でも取り入れてほしい

○行政の方にも総合的な学習の時間のねらいや評価について知ってもらいたい

○年度始めに行政の方と打ち合わせできれば見通しの立った学習になる

地域への関心を喚起
まちづくりへの参加意欲の醸成
行動変容の必要に関する意識の醸成 など